

令和4年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告

事業名	目的・内容（対象・人数等）	時期・回数
団体指導事業	自然体験をテーマにプログラムの指導依頼を、児童会館や市民団体に向けて実施した。今回は市内のスイミングスクールから要請を受けて、クリスマスリースの自然工作体験指導を行った。	11/20 48名
社会的課題解決事業	北方自然教育園の自然環境の中で、就学援助世帯の中学生を対象に学習要素を取り入れたレクレーションや収穫体験を行う事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響によって中止となった。	中止
自主事業	児童会館を対象とした北方自然教育園の連携事業として「ようこそ児童会館」を実施した。果実の生育過程や管理方法を学び、果物と自然環境との関わりや野外での集団活動における協力関係の増進を目的として、果樹収穫の自然体験活動を提供した。	10/8 23名 10/22 30名 10/23 22名 11/1 28名
自然環境関連フォーラム	北海道の自然環境の中で生息する川の生き物について、その生態や飼い方などについて学ぶ機会を市民にむけて実施した。講師にはYOSHINOBORI代表の金子拓人氏を迎え、実際に生き物を入れた水槽の中を目の前に、参加した大人や子どもと一緒に観察したり触れたりしながら、あまり見ることのできない珍しい生き物たちに変な興味をひかれていた。	3/4 6組 15名
市立幼稚園・認定こども園・学校に対する農業体験の機会提供に関する事業 (体験農場)	市立の幼稚園や学校の子どもたちに農業体験の機会を通じて自然環境や食べ物大切さを理解し、「食」について考える事業の提供を行い、希望するすべての学校に向けて実施した。来園した学校に対し、限られた時間のなかで有益な体験学習となるように事業プログラムを見直し、視覚的に理解を促すパネルを活用やクイズを取り入れるなど工夫し、わかりやすさを意識して内容の充実を図った。	6月～11月 2,550名 実施25校 延べ64校 <内訳> 畑作 11校 水田 31校 果樹 22校
市立幼稚園・認定こども園・学校に対する生物教材の提供に関する業務 (教材用生物の提供)	教材用生物（稲、ヘチマ、コオロギ、カイコ）の配付について、用意する生物や苗の準備を計画的に行い、温度管理を徹底することで、希望するすべての教育機関に安定して提供することができた。会場の混雑を避けるために提供時の工夫として、時間帯ごとに提供する生物などおよその必要数をあらかじめ仕分け準備をして臨んだ。	生物教材配付日 ① 6/1 ②6/2 申込213校 延べ634校 <内訳> 稲 92校 ヘチマ 196校 コオロギ 181校 カイコ 165校

<p>自然体験に関する学習機会の提供に関する業務</p>	<p>市民を対象にした事業として、「自然体験学習会」の実施をし、利用の促進を図った。</p> <p>〈家族でわくわく貝化石観察会〉2組5人 〈自然素材のクリスマスリース作り〉3組8名 〈新年しめ飾りづくり〉8組27名 〈北方フルーツファーム〉8組28名 〈北方ファーム〉5組18名</p>	<p>5～12月 合計 86名(26組)</p>
<p>自然体験や展示に関する情報の収集および提供に関する事業(情報収集・提供事業)</p>	<p>自然体験や展示に関する情報収集等の実施</p> <p>一般社団法人定山溪観光協会が主催した南区誕生50周年を記念したスタンプラリー(かっぱんラリー)に参加し、来館者に向けて施設の案内やここで見ることのできる展示や生物についての案内を行った。</p>	<p>7～8月 合計526人</p>
<p>自然体験や展示に関する市民の自主的な活動及び交流の支援</p>	<p>市民ボランティア事業は、ボランティアの方々に協力いただき、施設園内に関わる業務の補助や体験農場や自然体験の事業の補助業務に尽力をいただいた。</p> <p>教育機関支援事業については、東海大学の学生の研究の成果発表の場として、パネル展示を実施した。</p> <p>〈市民ボランティア事業〉 〈教育機関支援事業〉</p>	<p>市民ボランティア事業 (登録者3人) 5～12月 延べ人数90人</p> <p>教育機関支援事業 学生展示 2/18～3/19</p>
<p>自然体験や展示に関する相談業務(相談業務)</p>	<p>生物や展示内容などについての相談業務を日常的に行い、市民やマスメディアからの問い合わせ業務に対応した。受けた質問などは記録し、職員間での共有を図れるように実施した。</p>	<p>通年随時</p>
<p>その他北方自然教育園の設置目的を達成するために必要な業務</p>	<p>北方自然教育園の体験学習施設としての役割を果たすため、広く市民を対象とした体験事業を実施した。教職員研修では、自然観察や飼育栽培に関する研修を行い、施設への理解を深めていただいた。</p> <p>〈大人の学び舎 山野草講座〉6組8名 〈教職員研修事業〉7名 〈北方スノーシュー自然観察〉6組13名 〈ロビー展示〉 〈親子観察会〉3組10名</p>	<p>5月～3月 38名(15組) ※ロビー展示は施設利用者数に含む</p>

(使用承認等に関する業務)	<p>北方自然教育園の利用についての業務を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料貸室利用の受付(多目的室・工作室) 	<p>有料貸室受付 4件</p>
(広報業務)	<p>施設の PR につながる活動や広報業務、外部に向けて施設の情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Facebook ページの更新 ・メディア取材 (エコチル) ・事業チラシ等の発行 	<p>通年随時</p>
(調査・研究)	<p>北国の農作物についての学びの農園 (Learning Garden) を昨年に引き続き実施した。農薬を使わない自然農法について標本園内で実際に展示育成を行いながら市民が気軽に学べる環境を用意した。</p>	<p>5月～10月</p>

＜令和4年度事業実施報告内訳＞

【自然体験に関する学習機会の提供に関する業務】

単発型自然体験

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	7/24	日	「家族でわくわく貝化石観察会」 サッポロカイギュウの発見者でもある棚橋邦雄親子の協力のもと、豊平河川敷を散策しながら地層の説明や貝化石の観察方法を学び、発掘体験を実施した。	2組 5名
2	11/19	土	「自然素材のクリスマスリース作り」 小学生を含む家族を対象に、園内で採取したつる性植物「クズ」を用いたリースづくりを実施した。装飾に使用する自然素材を親子で吟味しながら作成し、完成したリースを家族ごとに発表していただいた。	3組 8名
3	12/17	土	「新年しめ飾りづくり」 自然素材を活用したものづくりを体験する事業で、親子で菅を編み込み、しめ飾りを作った。日本古来の伝統文化を親子で楽しみながら学ぶ機会を提供した。	12/17 6組 17名
4	12/18	日		12/18 2組 10名
① 小計(3事業4回)				13組 40名

継続型自然体験

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	5/14	土	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(土曜コース) ① 親子を対象に、農作物を育てて収穫するまでの体験を行う全3回の事業の1回目として、農作物についての学習と畑でトウモロコシとジャガイモの種まき体験を行った。	2組 6名
2	5/15	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(日曜コース) ① 親子を対象に、農作物を育てて収穫するまでの体験を行う全3回の事業の1回目として、農作物についての学習と畑でトウモロコシとジャガイモの種まき体験を行った。	3組 12名
3	7/19	土	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊(土曜コース) ②※継続参加者」 2回目は、ジャガイモやトウモロコシの生育状況の観察と記録作成、生育に大きく影響のある除草作業を親子で実施した。	2組 7名
4	7/10	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊(土曜コース) ②※継続参加者」 2回目は、ジャガイモやトウモロコシの生育状況の観察と記録作成、生育に大きく影響のある除草作業を親子で実施した。	4組 13名
5	8/20	土	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊(土曜コース) ③※継続参加者」 3回目はこれまでの回を振り返りながら、丁寧に育てた野菜を親子で協力し合いながら楽しんで収穫体験を行った。	2組 6名
6	8/21	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(日曜コース) ③※継続参加者」 3回目はこれまでの回を振り返りながら、丁寧に育てた野菜を親子で協力し合いながら楽しんで収穫体験を行った。	4組 16名
7	6/25	土	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(土曜コース) ① 親子を対象に、果樹園にあるナシを育て収穫する全2回の事業となり、1回目は摘果(果実の間引き)や、袋かけ作業体験を親子で楽しみながら行った。	4組 16名

8	6/26	日	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(日曜コース)① 親子を対象に、果樹園にあるナシを育て収穫する全2回の事業となり、1回目は摘果(果実の間引き)や、袋かけ作業体験を親子で楽しみながら行った。	4組 12名
9	10/15	土	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(土曜コース)② ※継続参加者 最終回は親子でナシの収穫体験と病害虫による被害についての学習を行った。成果物であるナシの収穫量に親子で笑顔を見せていた。	3組 12名
10	10/16	日	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(日曜コース)② ※継続参加者 最終回は親子でナシの収穫体験と病害虫による被害についての学習を行った。成果物であるナシの収穫量に親子で笑顔を見せていた。	4組 10名
② 小計(2事業10回)				32組 110名
① +②合計(5事業全14回)				45組 150名

【自然体験や展示に関する市民の自主的な活動及び交流の支援】

市民ボランティア事業

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	随時	—	個別自主活動による園内の環境美化、事業補助業務 ・枯れ枝拾い、花壇用花卉の播種、花壇および農場の除草、体験農場の補助	90回 90名
合計(1事業全90回)				90回 90名

教育機関支援事業

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	2/18 ～3/19	—	「学生展示」 東海大学生物学科の学生による研究調査結果の発表の場として展示スペースを提供し、「シジュウカラの子育て」をテーマに研究した内容を展示物やパネルを用いて展示した。	期間中随時
合計(1事業全1回)				

【その他北方自然教育園の設置目的を達成するために必要な業務】

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	5/8	日	大人の学び舎「春の自然散策～身近な山野草・山菜～」 大人のための自然体験学習の場として、園内の春の自然環境を散策しながら山野草について学べる機会を提供した。講師には北海道薬科大学の名誉教授を講師に招き、座学とフィールドワークを参加者に向けて実施をした。	6組 8名
2	7/29	金	「教職員研修事業」 札幌市教育委員会の教職員育成課が主となり、教職員の研修会の受入れを行い、野菜の除草作業や収穫体験、サクランボの残果処理を通して農業や自然体験の機会を提供した。	7名
3	9/18	日	「親子観察会」 親子を対象に、園内の植物や池の生き物の観察体験や見つけた生き物のトレーディングカード工作を行った。北海道自然観察協議会の自然観察指導員の方と一緒に協働で実施し、より専門性の高い知識をもとに動植物の生態について親子で楽しみながら学びを深めた。	3組 10名

4	1/14～ 3/19	—	「北方スノーシュー 野鳥観察&自然観察」 毎週末はガイド付きで園内をスノーシューで自然観察ができる事業として実施した。参加者は動物の足跡を見つけたり、冬の景観をスノーシューを履いてゆっくと散策した。	6組 13名
① 小計(4事業4回)				15組 38名

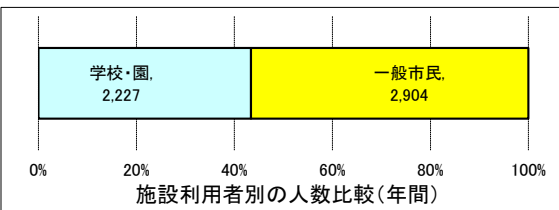
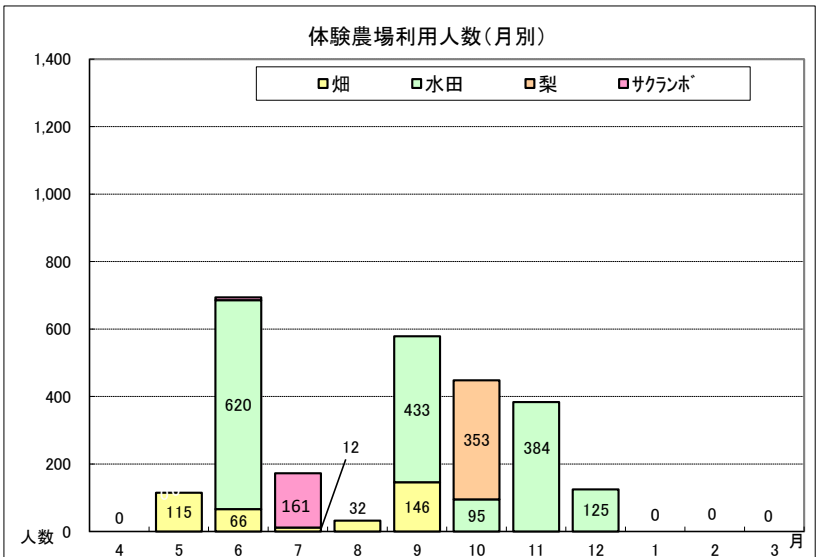
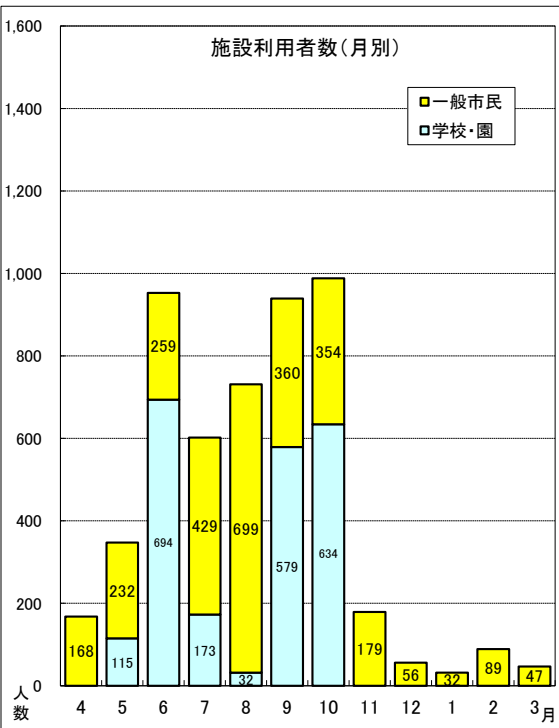
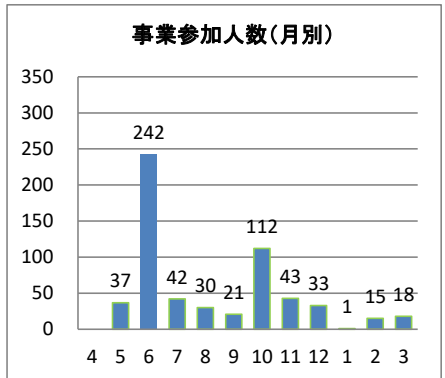
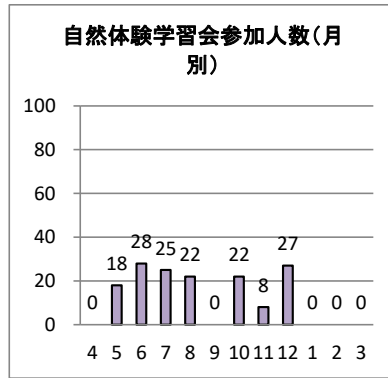
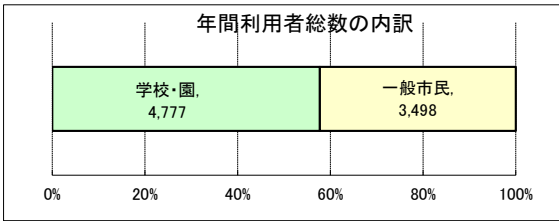
ロビー展示

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	5/1～ 5/22	—	「春の山野草・山菜」 園内で見られる植物を中心に、山菜や山菜によく似た毒性のある植物についてパネルを活用して情報提供の場とした。	期間中随時
2	7/16 8/21	—	「北海道で産出された化石と鉱物」 「家族でわくわく貝化石観察会」事業の開催と併せて、北海道で産出された化石と鉱物について書物や鉱石の実物を展示する充実した内容で利用者に学習の機会を提供した。	期間中随時
3	9/17～ 10/23	—	「秋の散策で注意したい生物」 北海道に生息しているヒグマやスズメバチなどの危険生物について、実際に遭遇した場合の対処法や生態などについてをパネルで紹介した。	期間中随時
4	1/21～ 2/12	—	「冬の森でなんだろー」 クイズ形式で、冬の森で見られる動植物について楽しみながら学べる展示を行った。	期間中随時
② 小計(4事業4回)				—
① +②合計(8事業8回)				15組 38名 ※随時期間含めず

令和4年度 札幌市北方自然教育園 月別利用状況一覧表

2023/3/31 現在

月	施設利用									体験農場								自然体験学習会	自然ふれあい事業	その他事業等(ボランティア等)	事業	合計									
	学校・園		一般			小計		学校・園				小計		組数	人数	組数	人数					組数	人数	組数	人数	組数(団体)	人数				
	校数	人数	団体	個人	人数計	団体	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数															校数	人数	校数	人数
4	0	0	1	11	157	168	1	168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	168		
5	3	115	2	21	211	232	5	347	3	115	0	0	0	0	0	0	3	115	5	18	6	8	0	11	11	37	19	499			
6	14	694	3	65	194	259	17	953	2	66	11	620	0	0	0	0	14	694	8	28	0	0	0	214	8	242	39	1,889			
7	5	173	2	42	387	429	7	602	1	12	0	0	0	0	4	161	5	173	8	25	0	0	0	17	8	42	20	817			
8	1	32	6	103	596	699	7	731	1	32	0	0	0	0	0	0	1	32	6	22	0	0	0	0	8	6	30	14	793		
9	12	579	3	140	220	360	15	939	4	146	8	433	0	0	0	0	12	579	0	0	0	0	3	21	3	21	30	1,539			
10	21	634	9	190	164	354	30	988	0	0	2	95	17	353	0	0	19	448	7	22	0	0	0	90	7	112	56	1,548			
11	0	0	4	108	71	179	4	179	0	0	7	384	0	0	0	0	7	384	3	8	0	0	0	35	0	43	14	606			
12	0	0	2	45	11	56	2	56	0	0	3	125	0	0	0	0	3	125	8	27	0	0	0	6	8	33	13	214			
1	0	0	0	0	32	32	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	33			
2	0	0	2	33	56	89	2	89	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	3	6	6	15	8	104			
3	0	0	1	11	36	47	1	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	6	15	7	18	8	65			
合計	56	2,227	35	769	2,135	2,904	91	5,131	11	371	31	1,657	17	353	5	169	64	2,550	45	150	11	21	12	423	65	594	156	8,275			



令和4年度札幌市北方自然教育園管理業務実施報告書

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1 統括管理業務

(1) 管理運営業務の事業方針

札幌市の野外施設として学校教育における自然体験活動機会の提供を第一義と捉え、農業体験を中心に安定的に自然体験活動の機会を提供した。学校カリキュラムの変更に伴い、事業内容について柔軟にプログラムの見直しを図り、学校教育のサポート施設として必要とされる施設づくりに努めた。

【重点目標への取り組み】

- ① 「市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供」

札幌市内の川の生き物をテーマに講師を招き、実際に生き物を見たり、触れたりしながらその生態や外来種や在来種などについての座学を行い、参加者の年齢を問わず楽しく自然環境保全について学べるセミナーを実施した。

- ② 「地域住民との関係性を深めるための地域活動への参加」

白川地区の地域活動として、共同水源地の整備や美化活動として除草作業や泥の除去作業を継続して行い、地域住民の施設への理解の増進と共に今後の円滑な関係構築に努めた。

- ③ 「小中学校をはじめとする体験学習への安定的な機会提供および学習機会の強化」

体験学習を申し込む学校が増加し、遠方から参加する学校も増えたことで、限られた体験時間の中でも子どもたちにとって有益な経験となるようにプログラムの見直しを図り、学年に応じた導入や説明パネルの作成を行った。

- ④ 「生物教材配布の生物飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給」

計画的に生物や苗の準備を行い、温度管理や種まきの時期を設定したことにより、希望するすべての教育機関に対し安定した供給を行うことができた。また、配布する日程についても柔軟に要望を取り入れたことで利用しやすさに貢献した。

- ⑤ 「SNS、HP、オンライン等を活用した小中学校に対する事前および事後学習の支援」

小学校教育に向け、体験農場の内容や活用方法、生物教材配布後の生物育成方法が学べる内容の動画を、教育委員会と共同で作成した。

- ⑥ 「指定管理者である当財団内の事業連携強化を図る」

児童会館との連携を図り、子どもたちへの水田や果樹の農業体験機会の提供や、環境プラザとの共同事業として園内のフィールドと環境プラザの豊富な環境プログラムを体験できる体験学習を市民に向けて実施した。

(2) 平等利用の確保

市民の誰もが分け隔てなく、快適に施設の利用ができる環境を整えるために職員間で施設環境や設備の再確認および利用者への平等性についての意識を強めた。

(3) 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

環境配慮の取り組みとして、節電や裏紙の利用などを日常的に実施する他、施設の運営に係る使用エネルギー量の記録を毎月職員全員で共有するなど施設全体で取り組む姿勢を継続した。

(4) 管理運営組織の確立

有事の際に迅速な対応ができるように連絡系統の整備や、統括管理者及び執務代理者を配備し、適切な施設管理や運営に努めた。各自の業務の役割を自覚しそれぞれが責任感を持って業務を進められるように、毎日の職員打合せを通じて進捗の報告や気づきに対する共有ができる環境を継続した。

(5) 管理水準の維持向上に向けた取組

接遇に関わる職員研修を行い、公共施設の職員としての高い接客の水準を維持することに努めた。また避難訓練なども適切に実施することで、非常時における職員の役割を再度確認し市民が安心して利用できる施設づくりに努めた。

(6) 第三者に対する委託業務等の管理

委託業者については、事前に暴力団や暴力関係者ではないことを確認したうえで入札を実施し、委託することを徹底した。利用者の安全が確保されることを前提として業務の履行を行い、市民の利用の妨げにならないように配慮をした。

(7) 委員会及び関係機関との連絡調整等

令和4年度の運営協議会については、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、対面で実施をした。事業についての報告や利用者からのアンケート結果を正確に報告し、委員の方から忌憚のない意見や感想をいただき、その後の施設運営に反映させた。

(8) 財務

金銭の収入事務については当財団の財務規程に基づいて適正に実施した。利用料金や参加料の取扱いについては必ず複数人で確認作業を行い、適確な金銭管理を行った。

(9) 苦情対応

市民からの意見があった場合には迅速に回答をするため、教育委員会への共有や報告など連携を図り誠実な対応ができる連絡体制を構築した。

(10) 記録・モニタリング・報告・評価

日常の施設利用者や事業参加者に対しアンケート調査を都度行い、モニタリング結果を市民に対し掲示によって公開した。また、データや書類などは適切に管理し、札幌市からの調査や報告を求められたことに対しては正確に対応をした。

2 施設・設備等の維持管理に関する業務

(1) 総括的事項

①利用者等の安全確保、市民サービスの向上への配慮等

不測の事態に備え自衛消防隊を組織し、消防計画に基づき消防訓練を実施した。

【施設管理】

施設内に掲示を行い新型コロナウイルス感染症防止対策の啓発を行った。
(新型コロナウイルス感染症防止対策については一部令和5年3月13日をもって解除)

- ・「新北海道スタイル」安心安全宣言の掲示

受付時

- ・ビニールシートを使用した簡易間仕切りの設置
- ・入館時の手指消毒、マスク着用の推進
- ・受付対応時は密にならないよう整理
- ・受付スペースの間仕切り継続
- ・利用者名簿提出（利用全員分）の継続

館内全体

- ・見学等密にならないよう身体的距離の確保
- ・飲食の原則禁止（水分補給程度は可）
- ・ゴミ箱の撤去
- ・図書の間読中止
- ・スリッパ消毒の徹底

貸室

- ・各室定員の50%以下で貸出とする
- ・貸室利用時の換気指導
- ・利用代表者、参加者の氏名、連絡先の把握管理
- ・参加者名簿については感染発生時等必要に応じて公的機関へ提供
- ・人数超過等対策を講ずることが困難と判断する場合は利用を認めない

屋外施設（園内広場・山道・駐車場等）

- ・マスクの着用等基本的対策の推進
- ・身体的距離の確保

【事業運営】

- ・屋内で行う事業については換気や消毒、検温など感染予防策を講じて実施した。

②連絡体制確保

職員および教育委員会など各関係機関との連絡体制を整備し、職員間で共有した。

③保険加入

事故やケガなど有事に備え、施設賠償責任保険及び損害賠償責任保険に加入した。

(2) 施設、設備等の維持に関する業務

①清掃業務

日常清掃については職員が行い、施設における環境の美化に努めた。また年に2回は専門の清掃会社に委託し特別清掃を実施した。

- ア 日常の清掃業務および施設内外の清掃業務（指定管理者が実施）
- イ 特別清掃業務（株式会社キョーエー札幌に委託し実施）

②警備業務

施設内安全管理のため、夜間警備や年末年始を含めた休園日の警備については警備会社に委託し実施した。警備の記録については毎月警備会社から適正に報告を受けた。その他火災や事故などの防止策として定期的に職員で点検を実施した。

- ア 警備業務（委託業者：株式会社ベルックス 機械警備として通年実施）
- イ 火災・事故の防止（指定管理者が日常点検として実施）
- ウ 火災または事故など有事の緊急対応（緊急連絡体制の作成）

③施設及び設備の保守点検業務

専門業者に委託して設備点検業務を実施した。
（委託業者：三城美装株式会社 通年実施）

- ア 自家用工作物保安業務
- イ 浄化槽維持管理業務
- ウ 冷暖房設備保守管理業務
- エ 受水槽清掃業務
- オ 温風器整備点検業務

④修繕

日常点検を行い、施設や備品などに修繕が必要な場合には職員による補修もしくは専門業者に依頼し、利用者に影響が及ばないように速やかに対応した。

- ア ロータリー修繕業務
- イ 除雪機整備修理業務
- ウ トイレ洗浄管修理業務
- エ オイルギアポンプエア抜き業務
- オ オイルギアポンプ配管一部交換業務
- カ 屋根アルミ板金補修修繕業務
- キ 温水1次循環ポンプ分解整備業務
- ク 温室暖房機分解整備業務
- ケ 噴霧器ノズル水漏れ修理業務

⑤備品管理

備品台帳との照会を行い、経年劣化によって破損または使用できない備品の整理をして適正な管理維持に努めた。

⑥駐車場管理

駐車場の管理及び駐車場利用車両に関しては職員が必要に応じて除草や整備、誘導などを行い、利用者の快適性や安全性の確保に努めた。冬期間の除雪については専門業者に委託し実施した。(委託業者：株式会社光和 12月～3月実施)

⑦外構緑地管理

敷地内の草木の選定や消毒、除草などを職員で日常的に行い、美観保持に努めた。

(3) 防災業務

消防設備保守点検を専門業者に委託し、年2回実施した。また消防訓練では初期消火を想定して実施した。(委設備保守点検託業者：株式会社ベルックス)

3 事業の計画及び実施に関する業務

「令和4年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告」

「令和4年度 事業実施報告内訳書」(資料1・2 参照)

4 施設の利用等に関する業務

「令和4年度 札幌市北方自然教育園月別利用状況一覧表」(資料3 参照)

5 管理業務に付随する業務

広報業務

「令和4年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告」(資料1 P3「広報業務」参照)

6 その他

自主事業

「令和4年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告」(資料1 P1「自主事業」参照)

令和4年度 札幌市北方自然教育園 収支報告書

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収 入

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	備 考
利用料金	118	150	▲ 32	利用料金
その他収入	118	165	▲ 47	参加料・受講料、雑収入等、
指定管理費	30,342	30,438	▲ 96	
収入計 (I)	30,578	30,753	▲ 175	

2. 支出

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	備 考
人件費	9,994	10,807	▲ 813	給料、臨時職員賃金、福利厚生費等
旅費・交通費	9	1	8	実費交通費、旅費
光熱水費	1,776	1,956	▲ 180	電気、水道料金
通信運搬費	234	219	15	固定電話、ネット回線等
租税公課	2,003	2,046	▲ 43	消費税分
広告宣伝費	40	0	40	
保険料	130	92	38	施設賠償・入場者保険
賃借料	164	632	▲ 468	軽トラックレンタル
修繕費	175	594	▲ 419	付帯設備修繕、農機具修繕、除雪機修繕等
消耗品費	1,068	1,512	▲ 444	管理用品、農業等物品、事業用品、飼育用品等
備品費	0	0	0	
印刷製本費	0	21	▲ 21	
燃料費	1,943	1,522	421	重油、灯油、トラクター軽油等
諸謝金	70	10	60	研修講師謝礼
委託費	12,147	10,144	2,003	体験農園営繕、樹木植栽物管理、警備、設備保守点検等
入場料	0	0	0	
負担金	0	7	▲ 7	
役員費	162	420	▲ 258	コピー機保守点検、浄化槽検査、ゴミ袋等
会議費	4	3	1	
雑支出	0	0	0	
支払手数料	2	0	2	
減価償却費	0	0	0	
行政財産目的外使用料	0	0	0	
その他支出	891	814	77	財団本部経費等
行政財産の目的外使用料				
支出計 (II)	30,812	30,800	12	

3. 収支差額

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	備 考
差額 (I-II)	▲ 234	▲ 47	▲ 187	